

施策番号	334	施策名	生涯スポーツの推進	令和5年度主管課名	生涯学習課
総合計画 体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和5年度課長名	小原 克則
	関係課名		健康推進課	シート作成者	日下 隆春

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)		③対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	町民	→	ア 人口	人	見込値			11,627	11,455	11,280
					実績値	12,497	12,358	12,116		
イ		→	イ		見込値					
					実績値					
ウ		→	ウ		見込値					
					実績値					
②施策の意図(対象をどうしたいのか)		④成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	日頃からスポーツに取り組んでもらう	→	ア 何らかの運動、スポーツを行っている町民の割合	%	目標値	51	52.5	53	54.5	56
					実績値	59.6	60.2	65.7		
					達成率	116.9%	114.7%	124.0%	120.6%	117.3%
イ		→	イ 週一回以上運動・スポーツを行っている町民の割合	%	目標値	46.4	48.2	50.0	51.8	53.6
					実績値	45.5	44.0	51.6		
					達成率	98.1%	91.3%	103.2%	99.6%	96.3%
ウ		→	ウ		目標値					
					実績値					
					達成率					
エ		→	エ		目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤成果指標設定の考え方		日頃からスポーツに取り組んでもらうことが施策の意図であるため、取り組んでいる町民数の割合を指標として想定した。			⑥成果指標の把握方法と算定式等		町民アンケート			

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	・町民はスポーツに関心を持ち積極的に楽しめるよう努める。 ・地域は、連帯感と親睦・融和を図るため、地域住民を挙げてスポーツ活動に参加する。 ・スポーツ団体は、会員の拡充を行い、施設の管理への協力や行事の開催や協力を行い、運営・指導のできる体制づくりに務める。	・町民がスポーツを行うための施設の整備や維持管理を行う。 ・誰もが参加しやすい内容や種目の検討を行い、機会を提供する。 ・団体及び指導者の育成と、団体が行うスポーツ普及活動を支援する。

3. 評価結果

5 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	
	スポーツを行っている町民の割合は前年度よりも増加しており、目標を上回る結果となった。その背景としては、コロナによる制限が撤廃されたことで、各種大会も再開されたことや、スポーツ推進委員による公民館や学校のPTA活動などでのニュースポーツ講座なども積極的に実施されたことにより、スポーツを行う機会も増加したことが影響していると思われる。また、町民からの要望が多かった多目的公園も完成し、さらなる成果の向上が期待できる。	☒ 目標値を上回る ☐ 目標値どおり ☐ 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)	
	町民アンケートでは「日頃から何らかのスポーツを行っている町民の割合」、「週一回以上運動・スポーツをしている町民の割合」は過去3年では年々増加している。文化スポーツセンターのアリーナの利用実績が令和4年度1,467件16,193人、令和5年度1,577件19,570人、B&Gプールの利用実績が令和4年度16,076人、令和5年度17,531人と利用者数がいずれも前年度より増加している。コロナ禍の制限が撤廃されたことで行動範囲が広がったことや、自己の健康に関心を持ち、意識的に体を動かす町民が増加していることが背景にあると考えられる。	☒ 向上した ☐ ほとんど変わらない ☐ 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
	スポーツ庁の令和5年度世論調査では、「20歳以上の週1日以上運動・スポーツをしている」率は52.0%であり、鏡野町は国の指標と比較すると0.4ポイント低い結果となっている。しかし、令和3～5年度にかけて、国内平均が56.4%、52.3%、52.0%と減少傾向にある中で、鏡野町では45.5%、44.0%、51.6%とV字で上昇傾向にあり、国内平均の水準に近づいている。要因は一概には言えないが、他課の事業である「かがみの健康チャレンジ90日」や「かがみの健康ポイント事業」等の取り組みにより、無理のない範囲で継続して運動を続けていくという意識が町民の間で浸透しつつあることが考えられる。	☐ 高い水準 ☒ ほぼ同水準 ☐ 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
	住民からの要望が多かった多目的公園については、令和5年度に整備することができ、今後多くの利用が期待される。また、部活動の地域移行が進められている中で、中学生が地域の中で安定的に活動するための環境整備(場所・指導者の確保など)が求められ、スポーツ少年団やスポーツ協会との連携が望まれている。	
	3. 施策の振り返りと総括(5年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
	① 施策の成果向上につながった主な事務事業	鏡野町多目的公園整備事業費、保健体育総務経常管理費
	② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	かがみのマラソン大会事業
	③ 施策全体の振り返りと総括	
	令和3年度から進められている多目的公園の整備は、令和5年度に完了し、町民からの大きな期待が寄せられている。ニュースポーツを中心とする普及活動として、総合型スポーツクラブ、スポーツ推進委員会、各地区公民館との連携による活動の他、各学校及びPTA活動、放課後児童クラブ活動への支援の継続を行うことができたことは、生涯スポーツの普及に大きく貢献したと思われる。マラソン大会は、開催方法やコンセプトの見直しを図ったが、コロナ前の参加者数には及ばなかった。広報が不足していたことが一つの原因と思われる。	
	4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
	① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	かがみのマラソン大会事業、保健体育総務経常管理費
	② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
	少年スポーツ活動は地域を超えた活動が進んでいる。高齢者層の健康づくり、体力づくりについては情報提供やスポーツ推進委員活動、公民館活動等との連携を強化し活動を継続することが必要となるが、高齢者層の増加に伴い人員の対応力に不足が生じる可能性があるため、町民の生涯を通じて気軽に運動やスポーツに取り組める環境づくりに向けて、「かがみの健康チャレンジ90日」や「かがみの健康ポイント事業」等の関係各課の事業との連携・協働した事業の構築を継続していくことが必要である。また、部活動地域移行に向けてスポーツ協会やスポーツ少年団等との協力体制を構築し、環境整備に向けて取り組む必要がある。マラソン大会については、町民をはじめ多くの人が参加するよう周知の方法を見直し、徹底していかなければならない。	